わたしのまちのとっておき文化遺産！

犬山たび

街道の巻

犬山市文化遺産活用実行委員会

犬山たび

街道の巻

目次

木曽街道 …… 三
木曽街道の石仏像たち …… 四
室原石の馬頭観音 …… 五
五里塚跡 …… 六
善師野（ぜんじの）宿 …… 七
福寿山禅徳寺 …… 八
磐座と石拾い峠 …… 九
稲置街道 …… 十
楽田追分 …… 十一
小弓の庄 …… 十二
旧堀部家住宅 …… 十三
旧磯部家住宅 …… 十四
専念寺・圓明寺 …… 十五
犬山城城下町 …… 十六
名勝木曽川 …… 十七
内田の渡し …… 十八
栗栖の渡し …… 十九
巡見街道・織田街道 …… 二十
犬山市内地図 …… 二十一
引用・参考文献一覧、たびにオススメの資料 …… 二十二

たびの案内人

犬山モモ次郎

その昔、桃太郎と一緒に鬼退治に出かけた勇敢なわんこ。犬山の「田楽」が大好き。あつあつのうちに食べるのが好き。お肉は苦手。

久久（くく）キギス丸

良しの仲間は次郎と食べ物はカレーライス。畑で採れた野菜を一杯入れた栄養満点のカレーは絶品。

木曽街道

名古屋から犬山を経て中山道に至る主要道

禅徳寺の馬頭観音

常夜灯と木曽街道

石仏

善師野宿の風景

木曽街道一里塚旧跡碑

木曽街道

年代：元和９年（1623）完成
関連遺構：一里塚（楽田原、塔野地、伏屋）
別名：上街道、本街道

往年の賑わいを残すかつてのメインロード

名古屋城下清水口から名古屋市北区を経て、小牧・楽田・羽黒を通り、善師野から土田を越え太田宿と伏見宿の間で中山道につながる約40キロメートルの道筋です。別名上街道とも呼ばれており、尾張の主要道として整備されました。

木曽街道は元和９年（1623）には完成したと考えられています。犬山市内では、善師野に宿駅が、楽田、塔野地、伏屋には一里塚が設けられました。現在、市内を通る木曽街道沿いには、石仏や道標が残されており、多くの人々が往行した当時の様子が偲ばれます。

木曽街道の石仏像たち

木曽街道関連

路傍に佇む石仏像

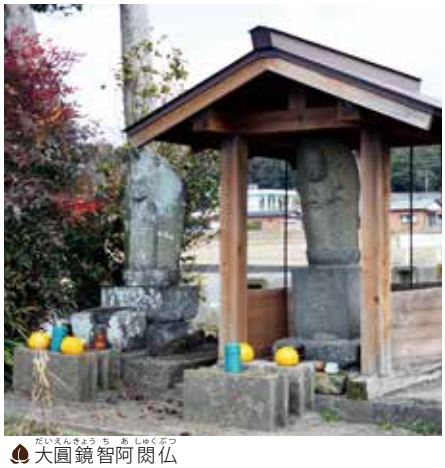
楽田地区の木曽街道沿いに置かれている石仏像です。

昔木曽街道を旅する人々の安全を願って置かれたものや、村内の安全・無病息災を祈るために置かれたものがあります。

現在も近辺に住む人たちによって花がたむけられ綺麗に手入れされている様子が伺えます。

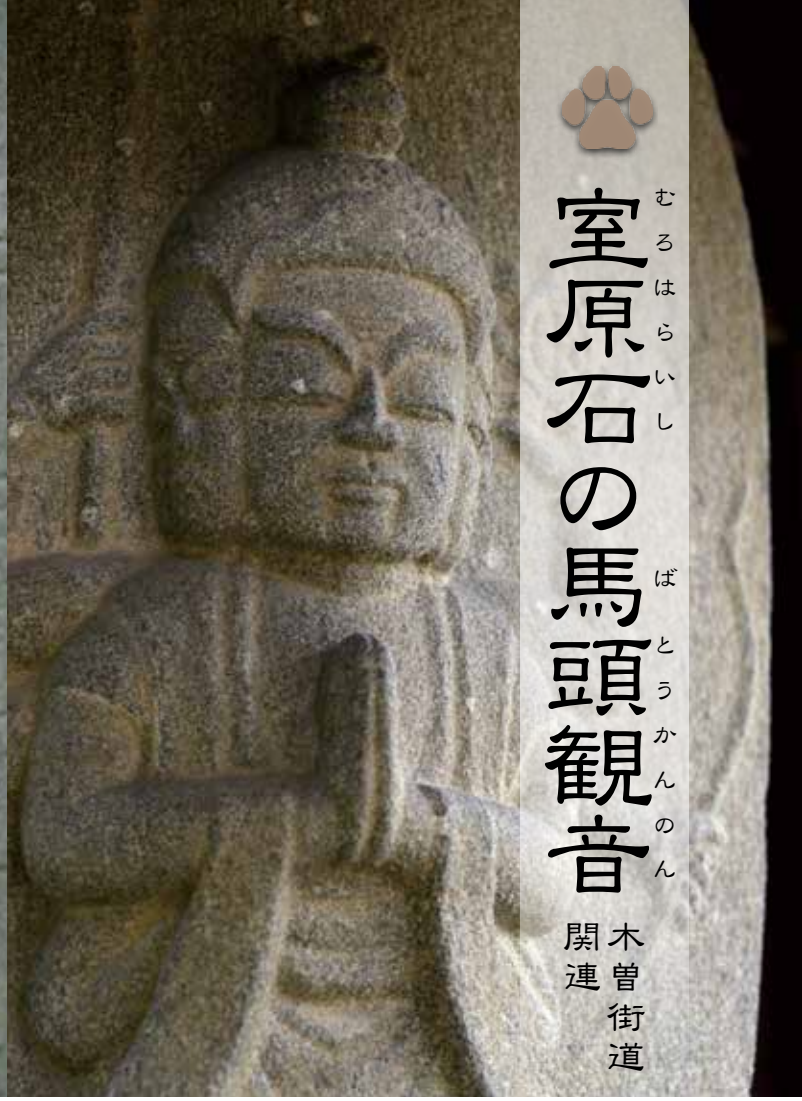
文化十二年銘の仏像

仏像群



大圓鏡智阿閦仏

三十三観音



室原石の馬頭観音（むろはらいしのばとうかんのん）

木曽街道関連

室原の石工「又右衛門」作馬頭観音像

馬頭観音は、本来憤怒の相で魔を馬のような勢いをもってうち伏せ、煩悩を断つ功徳があるとされていました。しかし江戸時代になると、農作業に役立つばかりではなく、陸上の運送にも欠かせない馬が大切にされ、馬頭観音を馬の無病息災の守り神として信仰するようになりました。

旧木曽街道に沿って、善師野西北野にも享和3年（1803）の馬頭観音像が安置されています。この馬頭観音像は室原の石工「又右衛門」への注文書が残っていることから、室原石で造られたのであろうと推測されています。

風景

天明三年銘の仏像

三面六臂の馬頭観音

五里塚跡（ごりづかあと）

木曽街道関連

木曽街道の中間地点に立つ一里塚

楽田原にかつて存在した木曽街道「一里塚」の跡地です。

江戸時代に造られた木曽街道は、名古屋城下から中山道伏見宿までを結ぶ全長約40キロの街道で、この地に造られた一里塚は名古屋から五里（約20キロメートル）の位置にあったことから「五里塚」と呼ばれていました。

現在は大正4年（1915）に建てられた「五里塚舊（旧）跡」の石碑があるのみです。

五里塚

犬山方面へ

名古屋方面へ

善師野宿

木曽街道関連

今はひっそりと宿場の面影残す

善師野宿は、木曽街道の宿駅のひとつです。木曽街道を行来する旅人の宿泊や荷物を運ぶ人馬の中継などを行っており、代々日比野家を中心に運営を行っていました。

この宿場は、木曽川増水時に中山道から木曽街道に迂回してくる旅人などに利用されました。宿駅の規模は、木曽街道の宿駅の中でも特に小さく、大名たちが休憩する本陣も一軒のみでした。

現在の善師野宿周辺には常夜灯などが残っています。

伏屋には、明治の教育者兼文学者であった堀澤周安生家に記念碑が立っています。氏は各地の学校の教壇に立ちながら、文部省唱歌「田舎の四季」を始め、数々の校歌や市町村歌の作詞をしました。

堀澤周安出生地碑

堀澤周安生家跡

善師野宿入り口の天王社

福寿山禅徳寺

関連 木曽街道

旅人を静かに見守り続ける古刹

福寿山禅徳寺は、善師野宿中ほどに位置する臨済宗妙心寺派の寺院です。本尊は、釈迦牟尼仏、開山は室町時代の禅僧、景川宗隆で、文明6年（1474）に創建されました。境内には数多くの石仏が並び、村の安寧と旅人の安全を見守り続けています。

明治時代の教育学者である堀澤周安の菩提寺でもあります。

柔和相の観音菩薩

憤怒相の馬頭観音

禅徳寺山門

禅徳寺入り口

磐座と石拾い峠

木曽街道関連

石拾い峠

磐座

山道にそびえる不思議スポット磐座

名鉄広見線善師野駅から、旧木曽街道を北上すること徒歩約15分、道の左手に巨大な岩が現れます。この巨岩は、古くからの磐座であると考えられています。磐座とは、日本に古くからある自然崇拝のひとつで、岩に対する信仰のことや、信仰の対象となる岩そのものを指しています。

この磐座は通称「箕岩」といい、『尾張名所図会』にもその姿が描かれています。

出典：尾張名所図会

石を拾って安全を祈る峠道

磐座のある道の先には、「石拾い峠」と呼ばれる標高約160メートルの峠があります。石拾い峠は尾張と美濃の国境にあたります。かつてこの場所には大きな石塚があったといわれ、険しい峠道で無事安全を祈って石を拾い、峠を通過して石を置いたと伝えられています。

稲置街道（いなぎかいどう）

名古屋城と犬山城を結ぶ脇往還

宿場としてにぎわった城下町

江戸時代に名古屋城下と犬山城下を結んだ脇往還として整備され、「犬山街道」とも呼ばれます。名古屋城東大久手（名古屋市東区）から中山道鵜沼宿（岐阜県各務原市鵜沼）までで、その間に宿場として小牧宿や犬山城下町が存在しました。また楽田（犬山市）で上街道（木曽街道とも呼ばれる名古屋城下と中山道伏見宿を結ぶ脇往還）と分岐する追分が存在します。なお名古屋城下から楽田追分までは上街道と重複します。

稲置街道

年代：寛永年間（1624-1645）
関連遺構：楽田追分道標
別名：犬山街道

楽田追分（がくでんおいわけ）

稲置街道関連

楽田追分の道標

右に行けば木曽街道、左に行けば犬山みち

楽田追分の三差路は、江戸時代には木曽街道と稲置街道との分岐点でした。

現在もかつての追分を偲ばす道標が四本残っており、「右きそ左犬山みち」「右善光寺左三光神社」などという文字が確認できます。

元禄享保の頃には、この追分の三差路に、観世音菩薩、地蔵尊、弘法大師などが安置されていたといわれています。

木曽街道と稲置街道の分岐点

小弓の庄（こゆみのしょう）

稲置街道関連

趣ある明治の建物 今は地域の憩いの場に

「小弓の庄」は国の登録有形文化財で、明治40年頃に建てられた建造物です。明治期の建物に特徴的な「擬洋風」といわれる和風建築に洋風を取り入れた建築様式となっています。建築当初は、現在地より西方の稲置街道に面して建てられていました。

建物は加茂郡銀行羽黒支店として使われていましたが、その後、次々と持ち主が変わりました。平成11年（1999）に現在地に移築され、建物は「小弓の庄」と名付けられ、羽黒地区の地域の憩いの場となっています。

小弓の庄内部

小弓の庄外観

小弓の庄外観

旧堀部家住宅（きゅうほりべけじゅうたく）

稲置街道関連

herica

大山城下町に唯一残る武家風住宅

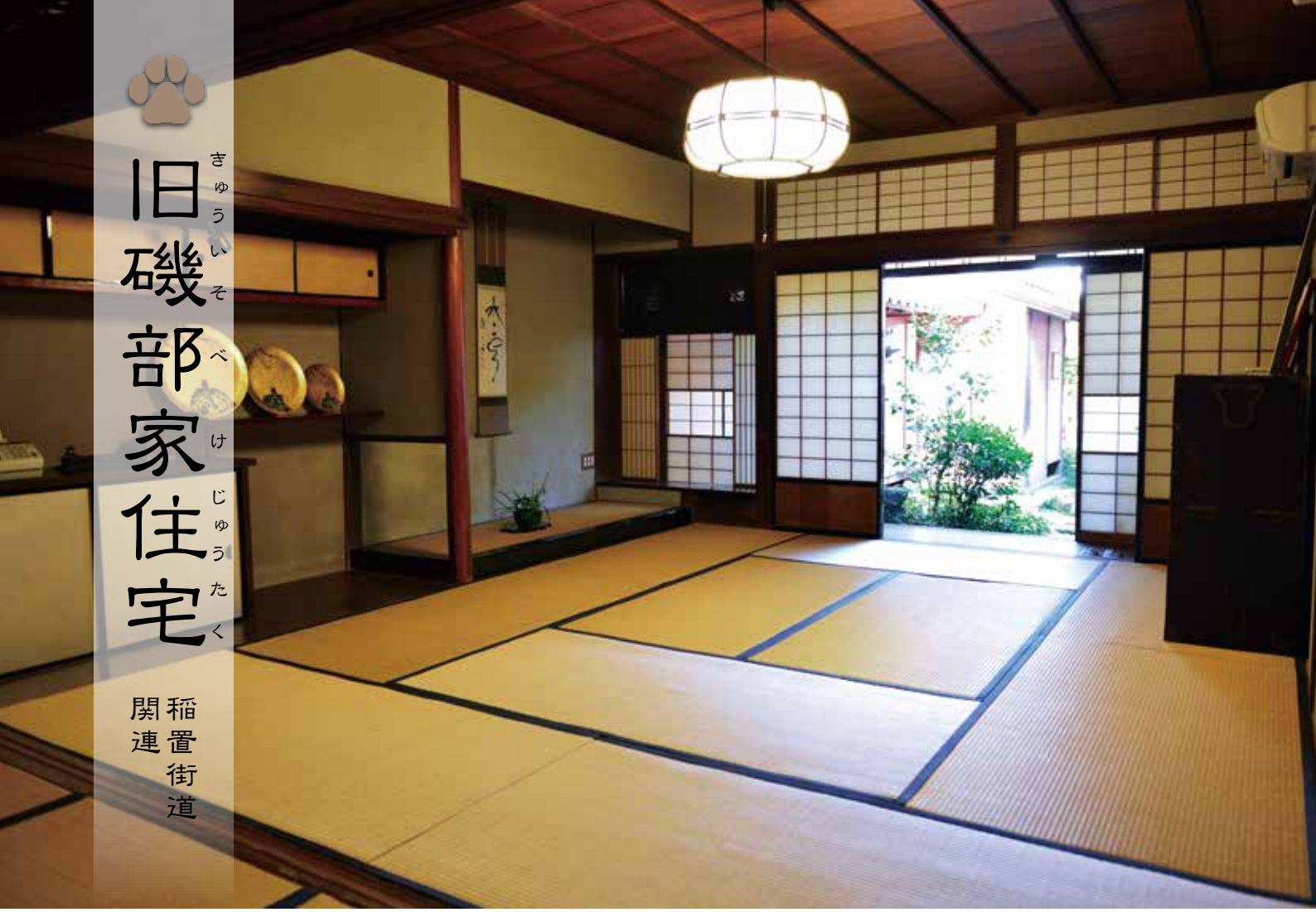
旧堀部家住宅は、明治16年（1883）に堀部家第12代当主、堀部勝四郎により建てられました。敷地は約405坪（1338.04平方メートル）で、後に土蔵・作業小屋・渡り廊が増築されました。武家屋敷風の格調高い雰囲気の中に、屋敷内で生業を営む農家の素朴さが取り込まれ、独特の風情を持つ建物です。

平成18年（2006）に、主屋、離座敷、渡り廊、土蔵、作業場、高塀が国の登録有形文化財となりました。

前庭

勝手土間

箱階段



旧磯部家住宅（きゅういそべけじゅうたく）

稲置街道関連

江戸期の町家

旧磯部家住宅は江戸期の建築様式を持つ木造家屋で、主屋は幕末に建てられたと伝わっています。緩やかなふくらみのある「起り屋根（むくりやね）」が見られる市内では唯一の町屋で、江戸期から呉服商を営なんでいました。正面は2階建て、裏は平屋の「バンコ二階」と呼ばれる造りになっています。敷地は間口が狭く、奥行きが広い「ウナギの寝床」のつくりです。

住宅内部

住宅外観

中庭

弁柄色の赤壁

専念寺

圓明寺

専念寺（せんねんじ）・圓明寺（えんみょうじ）

稲置街道関連

城下町に残る崇敬と信仰

犬山城下には稲置街道をはさんで東西に多くのお寺があります。圓明寺のしだれ桜は毎年華麗な花を咲かせ、人々を優しく迎えます。また専念寺には犬山城主、池田恒興（勝入）の墓碑があり、城下の歴史を今に伝えています。

しだれ桜（圓明寺）

鐘楼（圓明寺）

池田恒興　墓碑（専念寺）

本堂（専念寺）

犬山城城下町（いぬやまじょうじょうかまち）

稲置街道関連

城郭構造が今も残る街

犬山城下町は、「総構え」と呼ばれる、城と城下町の外周を堀で囲い込んだ城郭構造をそのまま残し、現在も当時と変わらぬ姿を見ることができます。

また、犬山祭の車山（やま）を所蔵した車山蔵（まぐら）が町のいたるところに点在します。

旧磯部家住宅からの眺め

犬山城天守から望む城下町

車山蔵

城下町の町家

名勝木曽川（めいしょうきそがわ）

日本八景に選ばれた景観を誇る

名勝木曽川

延長：229km
水源：鉢盛山（長野県）
河口：伊勢湾

悠然と続く流れ 恵みの源・名勝木曽川

犬山市の北辺を流れる木曽川は、長野県木祖村の鉢盛山を水源とし、濃尾平野を貫流して伊勢湾に注ぐ幹川流路延長約２２９キロメートルの河川です。犬山付近の木曽川の景観は非常に美しく、昭和２年（１９２７）に日本八景に選出されました。さらに、昭和６年（１９３１）には国の名勝に指定され、犬山城直下にある彩雲橋（さいうんばし）のそばには「名勝木曽川」の碑が立てられています。

内田の渡し（うちだのわたし）

名勝木曽川関連

平成の今でもずっと旅人を見守る常夜灯

内田の渡しは、犬山城から約700メートル北東の木曽川沿いにある内田地区から対岸の各務原市鵜沼の南町へ至る渡船場の跡です。この渡しの起源は古く、東山道の一部と考えられています。その後、江戸時代になっても内田の渡しの通行量は多く、その交通における重要性から、藩の保護のもと運営されていたようです。明治以降も渡しは続けられましたが、大正14年（1925）に犬山市と各務原市の間に犬山橋が架橋されると、渡しは廃止となりました。

常夜灯と名鉄電車

犬山橋から見る木曽川の風景

水神碑

石畳

栗栖の渡し

名勝木曽川関連

信長も渡った？石畳が残る渡し場

尾崎地区にある木曽川河岸に降りる道を下っていくと、古い石畳の道と水神碑が突然現れます。この場所には、かつて栗栖村から対岸の美濃国の岐阜県加茂郡坂祝町へ至る渡船場「栗栖の渡し」がありました。栗栖の渡しは、犬山に三カ所存在していた木曽川の渡し場のうち、最も上流に位置するものです。渡し場には大正期頃から、岐阜県の実業家の、岡田只次により考案された「岡田式渡船」が導入されました。これは両岸の堤防間にワイヤーロープを張り、特殊な滑車を取り付けて、川の流れを推進力として舟を動かす仕組みです。これによりかなりの増水時にも渡船ができるようになって、洪水による川止めが減少したと言われています。

渡し場は元々今の場所よりやや上流にありましたが、明治36年（1903）に移動したとされます。昭和30年代まで渡し場は続きましたが、現在は廃止されています。

石畳の道と水神碑

巡見街道・織田街道

じゅんけんかいどう　おだかいどう

県神社拝殿内から見る巡見街道

武士が通った道あれこれ

江戸時代になると、徳川幕府が特使を派遣して幕府領や私領の施策や民情を査察させました。これを巡見といいます。巡見は5代将軍綱吉の頃から将軍の代替わりごとに派遣されました。この時に特使一行が利用した道を巡見街道とよびます。巡見街道は犬山城下から木曽川沿いに一宮市域を経て津島方面へと至りました。

通称「織田街道」と呼ばれる道は、織田広近が居住した小口（おぐち）城（丹羽郡大口町）から、後に広近が築城した木之下城（犬山城の前身）を結んでいました。

巡見街道・織田街道

年代：(巡) 江戸時代初期・(織) 中世
関連遺構：(巡)―・(織) 木之下城跡
関連する人物：(巡) 徳川幕府・(織) 織田家

犬山市内

マップを持って、
文化遺産に出会う旅に出発！

遺跡 史跡　交通　建築物　祭り　自然 景観　おすすめ

0　2 (km)

(縮尺： 1 /50,000)

（地理院地図電子国土 Web を加工して作成）

引用・参考文献一覧（全巻共通）

愛知県犬山市役所秘書企画課 『犬山のむかしばなし』 犬山市役所 1983
愛知県犬山市役所秘書企画課 『犬山のむかしばなし 第２集』 犬山市役所 1987
愛知県犬山市役所 『犬山ものがたり』 犬山市役所 2004
愛知県教育委員会 『中世城館跡調査報告書Ⅰ』 愛知県教育委員会 1991
愛知県史蹟名勝天然記念物調査会 『愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告 第 10 史蹟其八 名勝其四 天然記念物其十』 愛知県 1927
愛知県史編さん委員会 『愛知県史 資料編４ 考古４』 愛知県 2010
愛知県史編さん委員会 『愛知県史 別編 自然』 愛知県 2010
犬山市エコアップリーダー 『犬山の巨樹・古木 50 選』 巨樹巨木調査グループ 2004
犬山市教育委員会 『犬山市の文化財』 犬山市教育委員会 1993
犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 史料編三 考古 古代・中世』 犬山市 1983
犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 別巻文化財・民俗』 犬山市 1985
犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 通史編上』 犬山市 1997
犬山市教育委員会 『全市博物館構想 市民が創る生涯学習のまち』 犬山市教育委員会 2002
犬山市教育委員会 『犬山城総合調査報告書』 犬山市教育委員会 2017
犬山城白帝文庫歴史文化館 『図説 犬山城』 公益財団法人犬山城白帝文庫 2014
木曽川学研究協議会 『木曽川とともに歩んだ各務原 犬山 岐南 笠松』 木曽川学研究協議会 2010
佐藤重造・横山住雄 『各務原の歴史散歩』 石亀神社 1986
横山住雄 『犬山の歴史散歩』 1991

たびにオススメの資料

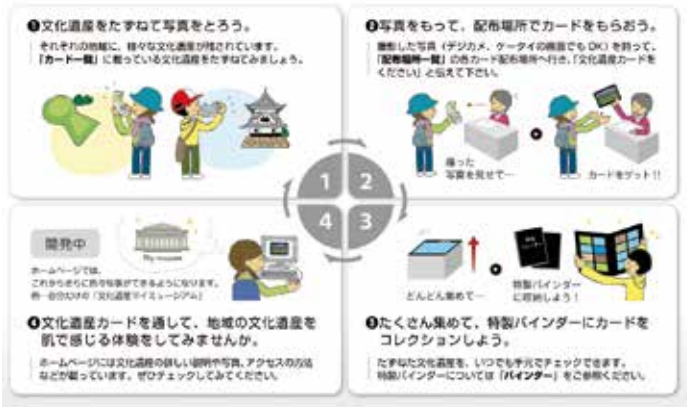
犬山城下町について
『犬山城下町マップ』犬山城下町の詳細マップ。犬山祭を見学する際は、携帯していると便利です。犬山観光案内所などで配布。

文化遺産カードについて：文中に、herica マークがついているものは、「文化遺産カード」がある文化遺産です。文化遺産を訪れてカードをたくさん集めましょう！
・「旧堀部家住宅」… 配布場所：旧堀部家住宅　※詳細は下記をご参照ください。

文化遺産を訪れて、カードを集めよう！
文化遺産カード

HP（http://herica.net）

文化遺産カードの楽しみかた



スマートフォンで文化遺産や史跡めぐり
犬山たび

文化遺産ナビとは、スマートフォンで使用できる犬山の文化遺産ナビシステムアプリです。どこにどんな文化遺産があるのか、またどんな方法で訪れればいいのか、簡単に調べる事ができます。

犬山の最新情報を HP でチェック！
犬山文化遺産ナビ

「犬山文化遺産ナビとは」

犬山市は愛知県の北西部にある豊かな自然や多くの文化遺産が残る地域です。犬山文化遺産ナビでは、犬山の魅力がわかるモデルコースや、見どころスポットをお伝えします。また、犬山市に伝わる物語もアニメでお楽しみいただけます。

犬山たび　「街道の巻」

発行年
平成 31 年 3 月 22 日
発　行
犬山市文化遺産活用実行委員会（犬山市教育委員会）
〒 484-8501
愛知県犬山市大字犬山字東畑 36　犬山市役所
企画・編集
ナカシャクリエイテブ株式会社
〒 468-8533　名古屋市天白区井の森町 205 番地

【編集協力】特定非営利活動法人
古代邇波の里・文化遺産ネットワーク
【写真協力】中野耕司

※本書の内容、テキスト、画像の無断転載、無断転用を禁止します。

犬山たび　全６巻
「祭の巻」「街道の巻」「城・古戦場の巻」
「古墳の巻」「物語の巻」「産業の巻」

犬山たび

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan